

# 歩 & 目 足 定ラテス

Vol.92

非戦論者安藤正楽の故郷、  
旧土居町界隈を歩く  
(四国中央市)

岡崎 直司

タウンツーリズム講座主宰・  
近代化遺産活用アドバイザー

## 【安藤正楽のこと】

果たして県内で安藤正楽の名を知っている人がどのくらいの割合でいるんだろう。出来ることなら、少なくとも「ああ、アノ人。」と半分くらいの方には知っておいてほしい人物の一人。その彼の故郷が現在の四国中央市土居町藤原。

慶応二（1866）年つまりは翌々年には新時代明治がやって来る、そんな江戸も最後の頃合いに彼は生まれ、幼少期は岸蔵と言った。やがて20歳となって正楽と改名、23歳の時（明治22年）に上京し明治法律学校（後の明治大学）に入る。様々な有為の人物との邂逅を経て27

歳で帰郷、今に残る小金井水道（灌漑用水）を完成させる。33歳で宇摩郡議會議員、37歳（同36年）で県議會議員に当選する。

順風満帆に見えたが41歳（同40年）の時事件が起きる。正楽が後に非戦論者と形容される由縁ともなった出来事である。近くの藤原八坂神社に日露戦役記念碑が建立され、その撰文を乞われて彼が書いた。

文中には「忠君愛国の四字を滅すと書かれていた。それが後



碑文が削られた日露戦役記念碑（八坂神社）



原文の説明(副碑)が横に建つ

に官憲の知るところとなり、碑文は全て削られた。富国強兵・殖産興業をスローガンに走った明治という時代、日露戦争に勝利した社会背景にあつて、「忠君愛国」の四文字は重かつた。その筆禍は、県議現役時の出来事でもあり、それが原因となったかその年の9月、彼は県議を退く。

その削られた記念碑は今も神社境内に残されているが、当然碑文内容は削られていて読めない。しかし、碑の側には説明看板があり全文を読むことが出来る。それは正楽の甥山上次郎によって調査研究されたことが大きい。記念碑建立の際の拓本が残っており、復元可能となった。前後の文面を読み、正楽の真意を探ってみよう。「当時170戸の村から39名が出征し、うち8名が負傷、2名が戦死している。村から多くの人が出て行った、当時を回想し戦慄する。戦争の非は世界の公論であるのに、事実ほ之に反して明日また戦は始まるかも知れない、世界人類のために忠君愛国の四字を無くしてはどうかと私は思う。この碑に銘記された人々はそのような想いで帰ったのだろう。」と彼の心からの慨嘆の言葉が並ぶ。今でこそ反戦平和というのは

異論の無い国民総意と思われるが、当時は違った。山上によれば伏線があり、郡会議員の時に徴兵検査に立ち会った際、「身を挺し国に尽くせと王は宣(の)るよ嗚呼人を殺しに我は来つるか」という和歌を作っている。しかもそれはかの有名な与謝野晶子が詠んだ「君死にたまうこと勿れ」の4年前とのこと。つまり日本初の反戦歌と言える。この文面が削られ、何も読めない日露戦役碑は、いや抹消されたからこそその国内屈指の反戦メモリアルなのだ。

【松風橋のハナ】

上記反戦碑のそばを流れる古子川を上流に遡ると、珍しい橋が架かっている。県内でも煉瓦製道路橋として唯一の存在となっている松風橋である。正確な架設年は不明だが、明治30年



松風橋



眼鏡橋状態の松風橋

代と伝わる。それも、日露戦争に従軍した(反戦碑に銘記された37名の中の一人か)後復員した時には既に架かっていたという証言。橋名は松ノ木地区(左岸)と風留地区(右岸)が結ばれたことによる。古来、金毘羅街道あるいは遍路道として善男善女の往来した主往還、大八車などが通り、まだモーターゼーション到来前ののんびりした時代である。

眺めは路上からでなく、やはり古子川の河原に下りてからの風情がピカイチ。赤い煉瓦アーチの円弧が際立ち、運が良ければ眼鏡橋とも言われた通りの情景も味わえる。

【関川のハナ】

旧土居町を南から北東方向へ貫流し、燧灘に注ぐ関川という河川がある。実はこの河川こそは、知る人ぞ知る鉱物採取の珍しいエリアとなっている。その源流は旧土居町の背面(南側)に迫る東赤石山系にあり、希少



関川河口の赤い砂(ザクロ石の砂か?)

な鉱物をもたらす由縁となっている。この辺りは、ほぼ高速道に沿って中央構造線が東西を貫き、その南側に青石を主体とする三波川変成帯

がやはり東西に横たわる。そのただ中にあるのが東赤石山(1706m)で、東の権現山にかけて国内では珍しい東赤石カンラン岩体という、地中深くで変成作用を受けたハズの非常に硬い岩石で山稜の主体が構成されている。本来なら地球内部のマントルに沈み込んで溶けるものが奇跡的に隆起した格好である。そこから流れ下るのが関川ということになる。河原には県内で採取される鉱物の約4割(22種)が確認されている。代表的なものでザクロ石や角閃岩、特にエクロジャイトは日本地質学会によって愛媛県の岩石に認定されている。また、入野地区には暁雨館という施設があり、岩石の事や地域の郷土史はそこで学ぶことが出来る。

【暁雨館・連絡先】

【電話】0896-28-6325



関川の河原石(曹長石点紋角閃岩、ザクロ石、紅簾石片岩ほか)